

努力賞

私と本のせかい

荒川区立第四峡田小学校六年

堀内 詩

柳田先生、こんにちは。私は小さいころから絵本が大好きで、将来の夢は絵本作家になることです。私が小さいころ、母が毎晩寝る前に絵本を読んでもくれました。絵本を読んでもらっているときに、もし自分もこの場面に登場していたらどうだろうと想像しながら聞いていました。例えば、「エルマーのぼうけん」は、自分がエルマー達と冒険の旅をしているようでワクワクしました。「ものすごくおおきなプリンの上で」はおいしそうなおかしが出てくるため、とてもお腹が減った気分になりました。柳田先生もそんな経験をしたことが

おありですか。

私は五年生の図書の授業で、「本のせかいへ」という絵本に出会いました。この絵本を読んで、私は本には人の心を豊かにする力があると思いました。なぜなら、伝記や図鑑を読むことで知らなかったことを学んだり、戦争の本を読むことで戦争のせつなさや平和の大切さを感じたり、ノンフィクションの本を読んで深い喜びや悲しみを味わったりすることができます。普段、身の周りで経験できないようなことでも、本のせかいで経験することができると思ったからです。

この絵本に「本をよんでわたしたちはおもうじぶんのげんざいとみらいのじぶんを」という一文があります。私はこれを読んで気が付きました。三・四・五年生の夏休みに調べる学習の宿題で絵

本の歴史や種類、絵本作家になるためにはどうしたらよいのかをたくさんの本で調べました。このことは、未来の自分を本のせかいでしることになるのではないのでしょうか。柳田先生はどう思われますか。

私が将来絵本作家になったら、読者が一日中うきうきした気分になれる絵本のせかいを作っていききたいです。私が絵本を出版した際は、柳田先生にも私の作った本のせかいを楽しんで頂きたいです。